

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202163		
法人名	有限会社 スマイルケア		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	長崎県佐世保市光月町4-11		
自己評価作成日	平成 30年 12月 3日	評価結果市町村受理日	平成 31年 2月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 31年 1月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>街中という立地を活かし散歩や買い物等外出の機会を多く取り入れるように工夫している。個々の時間の流れを大切に無理なレクリエーションは行わない。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは屋根が続いているアーケード日本一と言われる佐世保アーケード街の近くにあり、コミュニティ施設や医療機関・郵便局・民家などが立ち並ぶ佐世保市の中心地に位置し、買物や交通機関など利便性に優れている。ホームは町内会に加入し、町内行事への参加や保育所の園児訪問など地域との交流を深めていることが窺え、地域に開かれた風通しの良いホームと言える。ホームでは、各曜日毎にエアコンフィルターの清掃・シーツ交換・ホーム内の各箇所や居室内の棚等拭き掃除の重点清掃を行うなど、清潔保持に力を入れている。エアコンフィルターや空気清浄機等の清掃においては、細やかに頻度を設定することで感染予防にも繋げており、その姿勢が他にはないホームの優れた点と言える。男性職員も従事しており、男性職員ならではの力仕事を行うなど女性職員にとっても心強いものと思われる。ホーム職員は「いずれは自分やその家族が入居したい」と話しており、入居者の尊厳を大事にしている姿は、今後も期待できるホームと言える。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 3F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかで家庭的な暮らしとケアを」という事業所理念を作り、フロアに掲示し共有している。また新入職員に対しては入職の際にグループホームの在り方考え方の指導も行っている	施設長や管理者は、ホーム理念の意味合いについて職員採用の面接時に説明を行うほか、新入職員には理念に基づいた支援について指導を行っている。また、職員一人ひとりの能力に応じた年間目標を立て、支援内容の振り返りや目標達成度の確認を本人と一緒にやっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事や運営推進会議には地域の方に参加いただき、地域の行事にも参加できている。近隣の方とも顔なじみで日常的なあいさつや交流ができている。近隣の医療機関からの協力体制も整っている	ホームは町内会へ加入し、地域の方に向けて日頃からホームの理解が得られるよう努めている。年に1回は地域の方を招いて入居者との話や食事などを通して交流を深める交流会を行い、今回は民生委員の方2名の参加があっている。また、運営推進会議のメンバーである町内会会長からの町内行事への誘いがあるなど、地域に開かれた事業所であることが窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でGH内外の研修内容を伝達講習として報告している。また、参加していただいている地域の方にお困りごとがないか尋ねたり質問に答えたりしている。また電話での問い合わせにも対応し必要あれば包括につないだりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告内容に対するご意見やご指摘に関してはその都度検討しサービス向上に活かしている	運営推進会議には町内会会長、中部地域包括支援センター・他施設職員、入居者・家族代表の参加がある。会議ではホーム行事や内外の研修受講状況、ホーム内での事故発生状況、身体拘束廃止委員会の議事内容等の報告が行われている。メンバーからは地域行事や感染症予防について注意喚起が行われるなど、活発な会議内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加はもちろん、緊急入所の問い合わせをいただいたり、入所中の高齢者の金銭問題や家族問題を相談させていただき一緒に解決する等協力、相談できる関係を築いている	ホームでは、入居時に馴染みの友人や知人の連絡先が書かれたものを紛失し不穏状態となられる方について、市の担当の方に相談し解決に至ったケースがある。また、金銭・家族問題を抱えた入居者についても相談し、問題解決に向けて一緒に取り組むことに繋がっており、協力関係が築かれていることが窺える。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーマット使用を含め拘束は行なっていない。全ての職員は禁止行為を正しく理解できおり「虐待拘束委員会」においても毎月検討を行っている。防犯上玄関の施錠は行なう時間帯があるが極力開錠するようにしている。	ホームでは定期的に身体拘束廃止委員会を開催している。職員はセンサーマットを使用している入居者について、本人をケガなどから守る目的で使用していることを理解している。また、使用期間が記載された同意書にて家族から了承を得ており、使用の継続や中止については1か月毎に職員間で話し合い、検討がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を通して全職員虐待について理解できており毎日の軟膏塗布やトイレ介助時にアザや皮膚の観察を行い、異常あれば発見者が記録に残しヒヤリハットとして原因追及や再発防止対策を検討している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は社内研修議題としてあがってなかったため新人職員は理解できていない者もいる。管理者は理解できているため入居時に必要な方は対応できている。また、一部職員が理解できていなくても日々の相談事は管理者に全て上がってくるためその都度対応できる体制は整っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者はもちろんのこと入所退所改定時には文書等で説明し、同意をいただいている。高齢な御家族様等には理解できる複数の方で説明を聞いていただいたり電話だけの説明はしない等理解していただけるよう工夫している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時や面会時に声掛けを行い意見、要望のリサーチに努めている。職員も日々の会話を通して意見や要望を引き出せる様に努めている	職員は、日頃の生活の中で入居者や家族から意見の聞き取りを行っている。訴えることが困難な入居者については、日頃の観察や言葉掛けに対する表情や反応等で思いを汲み取るよう努めている。また、職員が新たに気付いたことや家族の面会時などに知り得た情報は連絡ノートや介護記録に記載し、全職員で情報共有できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、申し送り、介護全体会議を通して提案できる機会を設けている	ホームでは、全体での職員会議やユニット会議で職員が意見や提案を出し合い、入居者本位の支援に繋がるよう取り組んでいる。勤務シフトに関しては施設長や管理者が職員から希望を聞き、有給休暇や希望休の調整がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフからの家庭の状況等の相談に応じて勤務体制を考慮したり働きやすい環境づくりに努めている。毎年各自目標を定め達成評価をすることで向上心を維持できるよう努めている。また調整給はやりがいを維持するための一因となっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修では全員が勉強ができるよう担当を振り分け、社外研修は経験や力量に応じて参加者を決定している。また資格取得へのサポートも行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会の交流会には新人を中心に、会議等には管理者、研修会には経験年数を問わずに参加を促し同業者との交流の機会を作っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談ではご家族様や前担当者からの情報が主であるため入所後1～2ヶ月は訴えのみでなく表情や体調等から小さな変化も見落とさないよう特に気を配っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に詳細に面談やリサーチを行い、入所後も訪ねやすい雰囲気やこちらからの声掛けによって安心していただけるような関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や見学等で十分にお話を伺いGH入所が適当でないと判断される場合や待機困難な場合は他施設やサービスの紹介を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は自分の家族の話をしてアドバイスを求めたり、自然に手伝いをお願いしたりして共に生活する関係ができています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただけるよう声掛けをおこなったり、来所の際は個室でゆっくり過ごしていただいている。また行事や会議の参加も声かけして来所のきっかけとする工夫をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の面会もあり、ご本人の希望に応じて電話をかけることもある。	ホームでは入居時に生活歴を聞き取り、記録を行っている。職員は、以前外出した場所に行きたいと入居者より訴えがあった際には、本人と一緒に記憶を辿ってその場所を探しに出掛けたり、入居前に暮らしていた家までドライブに行ったりするなど、本人の関係継続のために努力を惜しまない姿勢が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあった入所者同士でゆっくり過ごしていただけるよう支援できている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で一時退所となっても関係が途切れることなく相談にはいつでも応じるようにしており、退院が決まったら優先的に再入所できるよう支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「それぞれの入所者のご自宅である」ということを全ての職員は理解できており個々の利用者様にあった時間の流れを大事にしている	職員は入居者や家族との会話の中から思いや意向の聞き取りを行い、把握に努めている。聞き取った内容は連絡ノートや介護記録に記載し、職員間での情報共有に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のリサーチやご本人様からの話からこれまでの暮らしについては全職員把握、共有できており入所によって暮らし方を大きく変えないよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々異なる状態を申し送りでも共有し現状把握できている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議はもちろん、状態の変化に応じてその都度話し合い、緊急の場合は電話で家族の承諾を得るなどして現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは、入居者の各担当職員がアセスメント・モニタリング・ケアプラン原案までを担当し、毎月行われるケア会議での話し合いを経て、計画作成担当者による最終作成がなされている。入居者に変化が生じた際にはその都度プラン内容の変更を行っており、日頃の会話の中で聞き取った情報をケアプラン見直しの際に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録記入や申し送りで情報を共有し、実施表でケアの実施を確認しケアの見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の少ない方についてはお話ボランティアを活用し、ご高齢の家族にかわって受診介助も行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お話好きな方には「お話ボランティア」、お花が好きな方は「花市」、演芸が好きな方には「地区公民館まつり」、気分転換に近所のコンビニのイートインコーナー等暮らしを楽しんでいただけに地域資源を活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの主治医をできるだけ変えることないよう、ご家族にも協力していただきながら対応できている	ホームでは入居前からのかかりつけ医への受診や往診など、入居者・家族の意向に沿うよう努めている。また、ホーム協力医による往診や受診、夜間急変時の対応も可能となっており、皮膚科、歯科の往診にも対応している。精神科については協力医療機関のMSW(医療ソーシャルワーカー)と連携を図っている。受診に家族が対応できない場合には、職員が付き添い支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護-看護間の情報共有はできており、管理者主治医への相談報告もできており、適切な対応に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にご家族と面談を行い、入院後2週間程で今後の経過や退院時期を含め病院関係者と面談を行うようにしている。状態に応じて早期退院の依頼も行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に意向の確認を行うとともに重度化した場合や終末期においてそれぞれの段階でご本人、ご家族、主治医と方針を検討し共有できている	ホームでは、入居時及び看取り期にホームで対応できること、できないことについて家族等に説明を行っている。家族の意向を聞き取り、主治医と検討するなど連携を図っている。ホームでは点滴の管理は可能であるが、その他の医療的ケアが必要となった場合には入院で対応する旨をあらかじめ家族へ伝えている。これまでホームにおいて看取りを実施した経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員もいるため急変や事故は管理者へすぐ報告を行い指示を受けるような体制は整っている。窒息に対する対応方法は職員も行えるよう指導している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に一度の避難訓練(消防立ち会い)の際には地区の消防団にも参加していただき、年度始めや9月の防災訓練ではマニュアルの確認説明を行い全ての職員が火災や災害時の動きをイメージできるよう努めている。また、日常のコンセント周りの掃除や点検でも対策を行っている	ホームでは年に2回避難訓練を行っており、その内1回は消防署立ち会いのもと地元消防団の協力も得て実施している。自然災害についてはマニュアルの作成がなされており、今年9月にはマニュアルに基づいて基本動作の確認を行い、有事の際に各職員が行動できるよう努めている。また、ホーム近隣の産婦人科の協力や協力医療機関の受け入れも可能となっており、避難時の受け入れ施設の確保もできている。	避難訓練の際の消防署からの指摘・指導事項や反省点等が記載された記録がなかった。例えば、指摘・指導事項や反省点等が記載された記録とともに訓練時の写真をファイリングして残すなど、記録内容を工夫することに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気がけてはいるが難聴の入居者様が多くなれば、トイレ誘導の時など大きな声になってしまうことがある	職員は難聴の入居者への言葉掛けに苦慮しているものの、入居者の人格を尊重した支援に努めている。ホームでは接遇についての施設研修を行っており、日頃の支援での所作について職員間で振り返り、互いに話し合うことによって自分自身のことを再確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「いいえ」としか言われない方についても表情や仕草で思いを汲み取るように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や体調、やりがいを考慮して職員は対応できている。昼夜逆転気味の方についてもその人のペースになるべく添う形で過ごしていただけるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日更衣される方もおられ、好みの洋服を着ていただいている。衣服の少ない方については職員が服を持ち込んだりして選択の幅が広がるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備をしたがる入居者は現在おられないが、テーブルを拭いたり茶碗ふきをお願いしたりしている	ホームでは、朝は職員が食材の購入や調理を行い、昼・夕食については宅配業者に食材を依頼し、調理工程が記載されたものをもとに職員が調理している。食事のバランスを見て品数を増やすなどの工夫もなされている。入居時には嗜好やアレルギーの調査を行い、本人の咀嚼・嚥下能力に応じた食事形態で提供している。職員は入居者の能力に応じてテーブル拭き等を依頼し、一人ひとりが持つ残存能力を引き出す支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や力、習慣に応じて食事形態を工夫したり体重の増減にあわせて主食の量を調節したりしている。また、好みに合わせて別に提供したり、水分摂取量が気になる方は測定したりして支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは声掛けのみの方から口腔ケアスポンジ使用の方まで個々の能力に合わせて支援している。またポリデントを使用し確実にやっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや本人のサインにより日中は全員トイレ排泄を行っている。夜間も個々のパターンに合わせてトイレ誘導、パット交換を行っている	職員は入居者それぞれの排泄パターンを把握し、定時の排泄誘導ではなく個別で対応を行っている。日中はなるべくトイレでの排泄を基本に支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量の少ない方には声掛けを行い好みの飲み物を提供するようにしている。運動やホットパックも行い薬に頼らない排泄を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	往診の日もあり毎日の入浴はできていないが体調不良の方は翌日に変更したり、時間帯はできるだけ希望に添うようにしている	ホームでは週2回の入浴日を設定しているが、体調不良や入浴拒否があった場合などには代替日を設けるなど柔軟な対応がなされている。夏場には基本の入浴日以外に毎日のシャワー浴も可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や状況に応じて自由に休息や睡眠を取れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は最新のものを記録としてファイルし、受信記録にも記載。いつでも確認できるようにして情報の共有はできている。また、健康チェック表で服薬のチェックを徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は個々の好みを把握できており、お手伝いの声かけやレクリエーション、買い物の声掛け等支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添えない時間帯はあるが、なるべくその日のうちに支援できるよう心がけている。町内会の行事等も活用して日帰りの外出はできているが高齢化や重度化もあり一泊旅行へは行けていない	ホームでは、町内敬老会の日帰り旅行への参加や『YOSAKOIさせぼ祭り』の見学、地区の文化祭に参加するなど、入居者が外出する際には職員による付き添い支援を行っている。また、本人の要望に沿ってドライブなどの個別での外出支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援等でその場でお金を渡して支払いしていただくが、認知の進行等により困惑されることも多い。また、お金の認知ができない入居者も多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等は希望される方がおられずできていない。電話は希望あればとりつぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や温度等は感じ方に個人差があり訴えに応じてできるだけ対応するようにしている。過度な刺激になるような外因はないように気をつけている。また、職員は季節感を感じられるようなフロア飾りを作成し毎月交換している	ホームでは清掃内容を曜日毎に設定し、事務室入り口には清掃の週間予定表を掲示している。職員は予定表に基づいてエアコンフィルターや空気清浄機、フロアの床拭きなどホーム内の各箇所の清掃を行っており、清潔保持に力を入れていることが窺える。入居者は清潔で過ごしやすい環境で生活することができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席を気の合う人同士になるよう工夫したりソファへ誘導したりと共用生活部分でもできるだけつろいで過ごしていただけるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏具の持ち込みをされている方がいらっしゃるが、「備え付けがあるなら」とあえて持ち込まない方も多い。茶わんや湯呑等はできるだけ使い慣れた物を持ってきていただくようご依頼している	ホームでは居室への持ち込み品について入居時に説明を行い、火器類や動線を妨げる大きさの物以外は持ち込み可能となっている。居室備え付けのタンスをそのまま使用される方や馴染みの品を持ち込まれる方など、入居者や家族の意向に沿って一人ひとりが居心地良く過ごせる空間づくりに職員は取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の家具の配置を工夫し安全に生活できるような動線を確保している。また、這って移動される方については床で入床していただき自分で移動しやすいように支援している		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかで家庭的な暮らしとケアを」という理念を掲げ、理念に沿った生活を送っていただけるよう、職員間での話し合いを重ねサービスの提供を行えるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域、事業所での行事への参加や、交流会を開催し地域の一員としての交流を図り、日常生活においても挨拶を心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事での交流で認知症の方と接することにより、理解を深めるきっかけとしていただいている。随時、電話での問い合わせや施設見学を行い地域の方々への認知症の理解へと繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常の会議以外にも会議の場において座談会形式の交流会や施設見学を行い、避難訓練へ地区の消防団にも参加していただくなど、意見をいただけるよう工夫をし反映できるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加いただき、交流会のチラシの配布など広報活動にも協力いただいている。入居の問い合わせもいただき協力関係を築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設外、内の研修を通し全職員の理解に努めサービスの提供を行っている。職員間でも身体拘束にあたらぬか話し合いを行いながらサービス提供を行っている。防犯上の理由により、玄関の施錠を行っている時間帯もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外、内の研修を通し全職員の理解に努めサービスの提供を行っている。職員は利用者の観察を行い、言葉掛けに注意してケアに取り組むよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度を利用されている方がいらっしゃるが、職員の理解は乏しく学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、十分な説明を行い、理解、納得をいただいた上で契約を交わしている。入居後も不安や疑問点には耳を傾けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など利用者の状態をお伝えし、その中で要望が出しやすいような雰囲気作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議以外でも日々の業務において各職員の意見や提案を聞き入れよりよい運営へ繋がるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況に応じた雇用形態をとり、個々の意見を業務に反映することで、やりがいや向上心を持って、働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた研修会への参加を促し、資格取得へ向けたサポートも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会の研修や交流会に参加し、意見交換を通して、サービスの質の向上へ繋げるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い、不安なことや要望を尋ね、安心して入所していただけるよう努めている。ご本人からの要望を聞き出せない場合は、ご家族や関係者からの意見を取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族との面談を行い、不安なことや要望をお聞きし、可能な限りの対応の説明を行い、安心して入所していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時に聞き取りする中で、事業所として対応困難な場合などは、よりよいサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じて出来ることを一緒に行ったり、知らないことを教わるなど暮らしを共にする関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態報告のお手紙や面会時に様子をお伝えし、ケアの中でご家族への協力も依頼し、ご本人とご家族の関係を保っていただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご本人の面会拒否がある場合を除き、どなたでも面会にお越しいただき、職員は、また来ていただけるような雰囲気作りに努めている。ご家族の協力もあり馴染みの場所へも足を運ぶことができている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性を考慮し食卓の配置を行い、共通の話題での会話や意思疎通の困難な方も孤立しないよう職員が間に入り共に暮らす者としての関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時に、いつでもご相談に応じれる旨をお伝えし、関係が切れることがないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を把握できるようコミュニケーションを重ね、希望に近い生活を送れるよう支援している。本人の意向が把握困難な場合は、ご家族の意向をふまえ、本人本位になるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの聞き取りや以前に利用されたサービスからの情報提供を元に、今後の生活に繋げられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察を行い、健康チェック表や連絡ノート、申し送りで勤務外の職員も把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月毎に担当者を中心に全職員でケア会議を開き、プランの見直しを行ない、状態の変化があれば随時見直しを行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やケアプラン実施表を元に、変化があれば申し送りや連絡ノートを活用し、情報共有に努め、実践、見直しへ繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人員や時間の調整を行い、ニーズに対しより良い方法を提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加やボランティアや子供たちとの交流で社会の一員として、豊かな生活を送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を受診できるよう支援し、希望があれば主治医の変更ができるよう支援している。また、専門医の受診を行えるよう、かかりつけ医への相談を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職への相談や、公休の場合でも連携医院への相談により適切な受診が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は、医療機関へ同行し情報交換を行い、早期退院へ向けて支援している。長期化する場合も再入所できるよう、医療機関と密に連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時点でのご家族の意向を書面にて確認し、実際にその時を迎えられた場合は、再度確認を行い、主治医へも意向を伝え支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応マニュアルを作成し、スムーズに対応できるよう、勉強会、シミュレーションを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災、風水害、地震発生時のマニュアルを作成し、定期的に火災時の避難訓練を行なっている。避難訓練には地域の消防団にも参加していただき、近隣の医療機関との協力体制も築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみある言葉かけの中にも、なれ合いにならぬよう、敬意を持ち、排泄やプライバシーに関する話をする時は、他者の耳に入らないよう個別で話すなど工夫をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表しやすい雰囲気作りに努め、選択肢を設けるなど自己決定がしやすいよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	往診や病院受診を除いては、一人ひとりの意思を尊重し過ぎていただけるよう臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望する洋服の中で季節に合った物を着ていただけるよう支援し、定期的に散髪をしたり、希望があれば理、美容院へ行けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、準備や片付けの手伝いをしていただき、体調に応じて嗜好に配慮した形態やメニューの変更を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が低下されてきた方には、補助食品(ゼリー等)を提供し、状態に応じ水分、栄養補給ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促し、状態に応じ介助にて、口腔ケアスポンジやティッシュを使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を元に排泄パターンの把握に努め、時間毎のトイレ誘導を行っている。トイレ使用が困難な方は、時間毎のパット交換を行い、不快な思いをされないよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水や食事形態を工夫し、腹部マッサージなど自然排便への働きかけに努めている。必要に応じて主治医への相談により内服を使用する場合がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回、曜日を決めているが、時間帯は、個々の希望に沿って入浴していただいている。拒否がある場合は、無理強いせず、臨機応変に入浴日の変更を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じ、自由に休息していただくが、夜間に気持ちよく休んでいただけるよう、日中は、体操やレク、手伝いに取り組んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は、ファイルにまとめ、効能と副作用を理解できるよう努め、内服の変更があった場合は、観察と記録を行い、主治医への報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせた、できることを楽しんで取り組んでいただけるよう、声掛けや、作品を飾るなど工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員の調整や業務の変更を行うなど、できるだけ希望に沿えるよう努めている。ご家族の協力もあり外出支援が可能となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にて管理をしているが、希望や必要時は、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、対応可能であるが、現在は希望される方があまりいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の得意なこと(書道など)を活かし、季節感のある飾り付けを行い、車イス利用者や歩行者、それぞれが過しやすい空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車イス利用者や座位を保てない方がいらっしや、食事の席は決めているが、それ以外は、その時の気分で自由に過していただけるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や愛着がある物は持ち込んでいただき、安全に配慮した居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせて、動線の確保や家具の配置を工夫し、残存機能を維持していけるよう努めている。		